

第4章 将来像・目標の設定

4.1 需要の見通し

本市の将来人口は、最新の需要実績を基に推計した結果、少子・高齢化の進展などにより、平成20年度実績83,721人から、5年後の平成25年度が約79,900人、計画目標年度（平成29年度）が約76,200人と今後10年間で約7,500人の減少が予想されています。

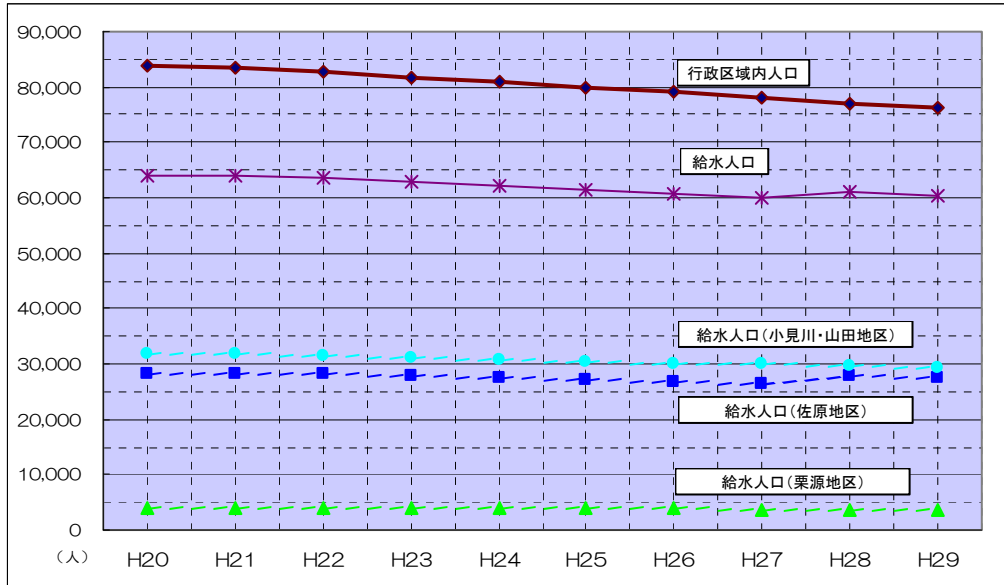
また、給水人口及び給水量についても将来の人口趨勢の影響から減少する傾向にあり、計画目標年度における推計値は、下記の通りとなります。

▶ 計画目標年度（平成29年度）の推計値（香取市全体）

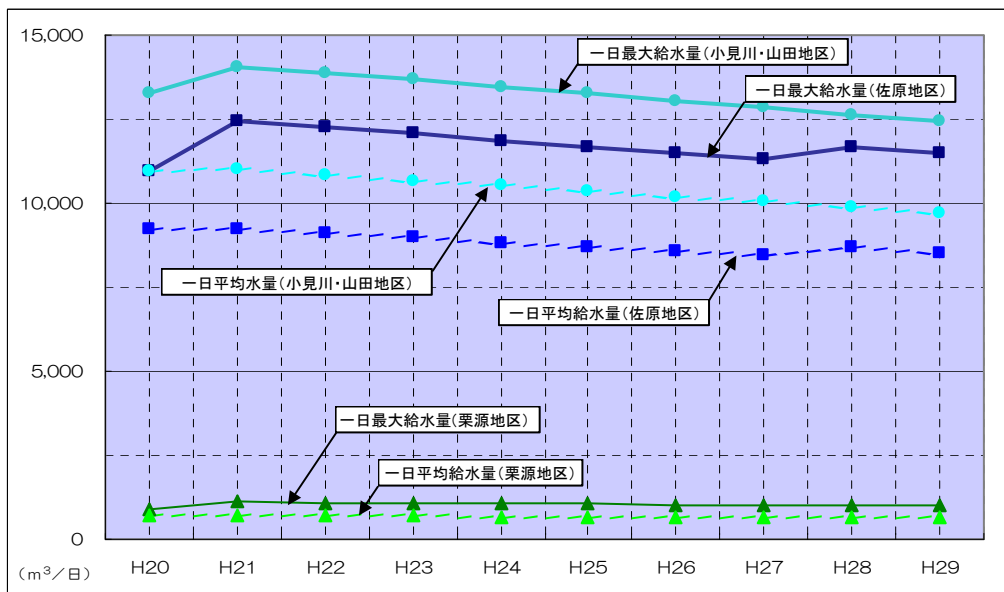
・給水人口 60,300人 ・一日最大給水量 24,900m³/日

図表 4.1.1 人口及び給水量の予測結果

項目		年度	実績	計画									
				2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
				H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
行政区域内人口		(人)	83,721	83,491	82,659	81,750	80,841	79,932	79,023	78,112	77,142	76,172	
給水人口	佐原地区上水道事業	(人)	28,201	28,284	28,035	27,728	27,452	27,144	26,836	26,558	27,776	27,492	
	小見川・山田地区上水道事業	(人)	31,685	31,777	31,499	31,153	30,843	30,497	30,151	29,840	29,470	29,134	
	栗源地区簡易水道事業	(人)	4,000	4,012	3,977	3,933	3,894	3,850	3,806	3,767	3,720	3,678	
	合計	(人)	63,886	64,073	63,511	62,814	62,189	61,491	60,793	60,165	60,966	60,304	
給水量	平均	佐原地区上水道事業	(m ³ /日)	9,219	9,238	9,105	8,972	8,835	8,701	8,559	8,429	8,669	8,534
		小見川・山田地区上水道事業	(m ³ /日)	10,978	11,000	10,843	10,683	10,521	10,360	10,192	10,036	9,876	9,714
		栗源地区簡易水道事業	(m ³ /日)	714	715	705	695	684	674	663	653	642	632
		合計	(m ³ /日)	20,911	20,953	20,653	20,350	20,040	19,735	19,414	19,118	19,187	18,880
	最大	佐原地区上水道事業	(m ³ /日)	10,952	12,417	12,238	12,059	11,875	11,695	11,504	11,329	11,652	11,471
		小見川・山田地区上水道事業	(m ³ /日)	13,249	14,075	13,875	13,670	13,463	13,256	13,041	12,842	12,627	12,420
		栗源地区簡易水道事業	(m ³ /日)	879	1,114	1,098	1,083	1,065	1,050	1,033	1,017	1,000	984
		合計	(m ³ /日)	25,080	27,606	27,211	26,812	26,403	26,001	25,578	25,188	25,279	24,875



図表 4.1.2 行政区域内人口及び給水人口の予測グラフ



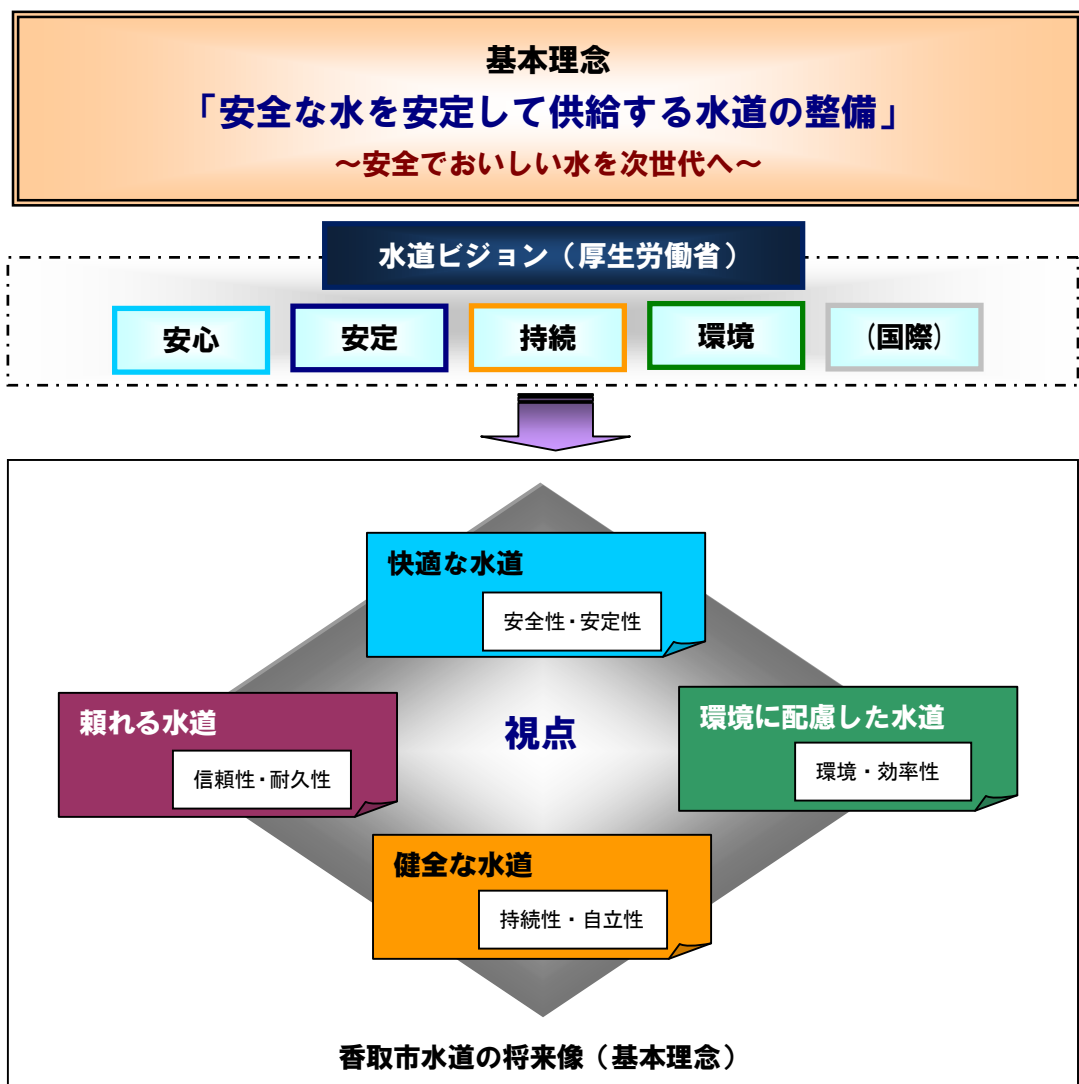
図表 4.1.3 一日平均給水量及び一日最大給水量の予測グラフ

4.2 将来像の設定

本市は、これまでに、豊かな自然に恵まれ、安全で良質な水道水をできる限り低廉な価格で供給する体制を築いてきましたが、近年、水道事業を取り巻く環境は大きく変化しており、病原性微生物や化学物質など多様化する水質問題への対応や老朽化により更新時期を迎えた水道施設の改良や再構築が必要となっています。さらに、水の世紀と言われる21世紀においては、人々の存在基盤である安全な水を確保するために環境や省エネルギーの視点からもそのあり方を見直す時期にきています。

本市水道事業の将来像は、上位計画である「香取市総合計画」との整合を図りつつ、水道ビジョンに示された長期的な政策課題（「安心」「安定」「持続」「環境」及び（国際））の視点に留意し、「安全な水を安定して供給する水道の整備」の基本理念をもって、次世代に継承するにふさわしい水道をめざすものとします。

また、本市が抱える様々な課題の解決を図るとともに、水道を取り巻く新しい社会環境にも対応できる水道を構築し、本市水道の基本理念を実現するため下記に示す4つの視点に立脚した施策の推進を図るものとします。



4.3 目標の設定

本市水道事業が抱える課題を解消するとともに、水道を取り巻く新しい社会環境にも対応できる水道を構築し、基本理念（将来像）「**安全な水を安定して供給する水道の整備～安全でおいしい水を次世代へ～**」を実現するために下記の4つの基本目標を策定しました。

○基本目標1：快適な水道

★安全で快適な水質の確保

近年、私たちの生活様式は多様化し、食生活も大変豊かになり、さまざまな飲料水が身近で手軽に手に入ると共に、健康への志向も高まっています。そのような中、水道水にはおいしさが求められており、適切かつ効率的な水質管理や施設管理などにより、市民に将来にわたって「安全でおいしい水」の提供を目指します。

★安定した水道システムへの再構築

利用者は、蛇口をひねればいつでも十分な水が供給されることを望んでいます。計画的かつ効率的な水道施設の整備により、将来にわたって「安定した給水」の確保を目指します。

○基本目標2：頼れる水道

★災害や事故に強い水道の構築

自然災害は、いつどこで発生するかわかりません。水道は、市民生活及び社会経済活動を支える重要なライフラインとして、台風、濁水などの自然災害発生時はもとより、大規模地震発生時にも最低限の給水を確保することが求められています。

本市では、重要施設の耐震化や応急給水拠点の整備など地震災害に向けた水道施設の整備と併せ、災害直後の給水体制や応急復旧など早期復旧に向けた手立てなど、災害対策をさらに強化していくことで、「災害や事故に強い水道」の構築を目指します。

★信頼される水道サービスの提供

窓口サービスの充実や情報公開の推進などにより使用者に「信頼される水道サービスの提供」を目指します。

○基本目標3：環境に配慮した水道

★環境にやさしい水道の構築

近年、産業活動の活発化等により、地球温暖化の傾向が顕著となり、各地で異常気象が頻発化しています。水道システムは、水循環系において環境と密接に関連しており、環境保全の観点から、エネルギー消費量の削減（温室効果ガスの排出削減）などによる環境負荷の低減やリサイクルの推進等により、「環境にやさしい水道システムの構築」を目指します。

○基本目標4：健全な水道

★持続可能な健全経営の推進

維持管理時代を迎えて、老朽化施設の更新や災害対策など料金収入に直接的に繋がらない財源の投入が見込まれています。このような状況のなか、中長期財政計画の策定やコスト縮減対策の実施による事業の効率化などにより、財政基盤を強化し、長期的に安定した事業運営を目指します。また、投資効果のある施設整備や適切な維持管理を行うため、技術者の確保や技術力の維持・向上に努め、将来においても「持続可能な健全経営の推進」に努めます。

★市民参画による事業運営

積極的な情報公開や広報活動を通じ、利用者ニーズを把握し、また、情報を共有するなど透明性の高い「市民参画による水道事業運営」を目指します。

図表 4.2.1 施策一覧表

基本理念	基本目標		基本施策
安全な水を安定して供給する水道の整備	快適な水道	安全で快適な水質の確保	水源の水質保全
			水質管理体制の強化
			おいしい水の供給
		安定した水道システムへの再構築	高度浄水処理導入計画の推進
			水道施設の計画的な整備と更新
			送・配水施設の再編
	頼れる水道	災害や事故に強い水道の構築	地震対策の強化
			危機管理の強化
		信頼される水道サービスの提供	利用者サービスの向上
			利用者の管理責任の負担軽減
	環境に配慮した水道	環境にやさしい水道の構築	環境負荷の低減
			環境に配慮した事業の推進
	健全な水道	持続可能な健全経営の推進	経営基盤の強化
			事業・業務の効率化
人材の育成と技術の継承			
市民参画による事業運営		情報公開・広報活動の推進	
		市民参画による水道事業活動の推進	